

平成22年度 研究指定校実践事例 原山中学校

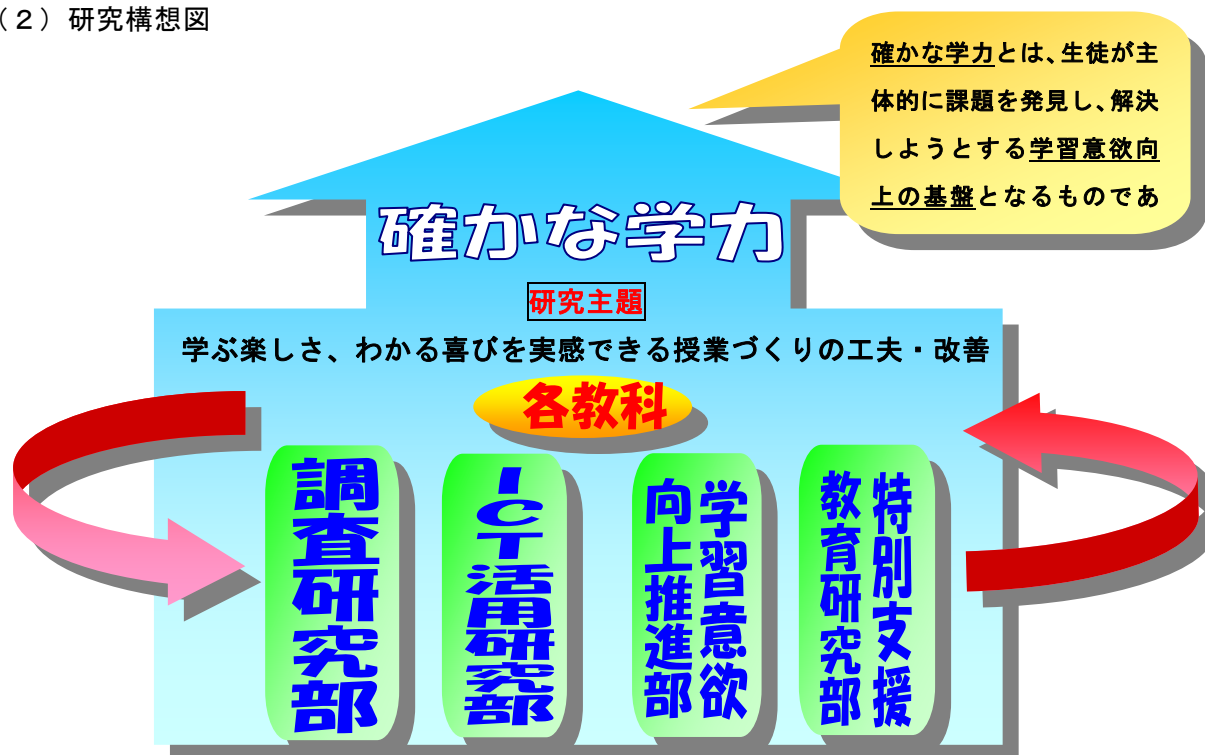
1 研究主題

学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる授業づくりの工夫・改善
—確かな学力を目指したICT機器の活用—

(1) 主題設定の理由

各教科の授業の指導法を工夫・改善し、各教科に対する生徒の興味・関心を喚起することによって、学習意欲を高めることは大変重要であると考えられる。その際に ICT 機器を活用し、指導することは、様々な分野への大きな学習効果につながると予測できる。そのことにより、確かな学力の定着を図ることができると考え、上記主題を設定した。

(2) 研究構想図



2 研究内容

(1) 研究の進め方

「学ぶ楽しさ・わかる喜び」を実感できる授業の実現に向けて、各教科で取り組むものとした。その際、教科間の連携を密にし、教科横断的な授業の導入を意識した。また、学習者の学習意欲を喚起し、より「わかる」授業の実践のために ICT 機器も積極的に活用することとした。



(2) 研究組織

研究については、研修推進委員会がその中心となって「仮説立て」「実施計画」「まとめ」を行い、その意を受ける形で、次の四つの研究部を立ち上げた。

① 調査研究部

現在の原山中学校生徒の学習に関する意欲及び学力の実態について検討調査を行い、それが授業改善によりどのように変化したか、その変遷を追う。

② ICT活用研究部

校内LAN及び導入機器が、学習上どのような効果を上げるかを検討し、その使い方及び授業活用例について、年数回の研修を主催する。

③ 学習意欲向上推進部

教科主任があたるものとする。各教科ごとの学習における現状について情報交換を行い、その中で教科を横断した取り組みが可能であれば、それについての実践を検討する。

④ 特別支援教育研究部

特別支援担当があたるものとする。自立支援に向け、個々の能力に応じた適切な指導方法の工夫・改善を行い、「学ぶ楽しさ・わかる喜び」を実感できる授業の実践をめざす。

3 研究発表会（10月22日）

【公開授業】

当日は、8つの授業を公開し、多くの参観者を集めることができた。各教科、ICT機器を積極的に活用することで、学習者の意欲を高める指導の在り方について、実験的な授業を行い、全体会・分科会等を通して、研鑽を深めることができた。



4 成果と課題

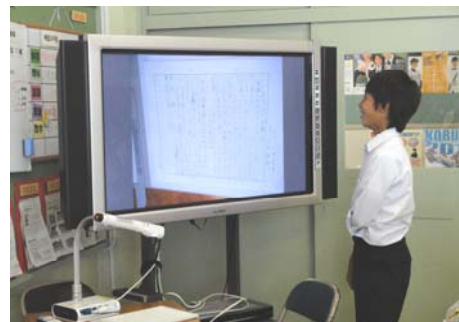
(1) 研究の成果

・ICT機器活用の重要性

学習者が主体的に課題を発見し、自ら「わかる喜び」を味わえる学習活動を行うためにICT機器を活用することは、「視聴覚に訴えるわかりやすさ」、「授業内容の明確化」の二点を飛躍的に発展させることができ、大変効果的であるということも明らかになった。

・「表現し、伝え合う力」の重要性

「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感できる授業づくりを行う上で、他者とのコミュニケーションが重要であるということが今回の研究で明らかになった。他者と語り合い、相互評価を行うことで、自らの「わかったこと」を理解し、そのことが次の課題設定へとつながっていくと考察されるからである。



(2) 今後の課題

「確かな学力」を高めるための指導は、授業の中で長期的な見通しをもって行う必要がある。単発的な実践だけでは、その時間内での学習者の興味・関心のみを惹くことができ

ても、恒常的な学習習慣への意欲にはつながらないからである。そのためにも学校・教科全体で取り組む長期的な指導計画と、個々の生徒に対する学習状況に応じた柔軟な姿勢が必要であるとする。